



譯字号
本局

114
A 720



明治十年五月廿五日

翻譯懸

本局

参後



お席へ通へラルド タイムス バブリ
ツクホビニラン 三種新聞合計十冊
葉福なるは高覧見ぬや



目次

- 一 政府軍艦ヲ製造セントス
- 一 支那國阿片禁止ノ件
- 一 支那全權公使英國皇帝ニ謁見シタル事
- 一 輓近自由凡俗ノ流弊婦人廉操ヲ喪フ事論ス

大正
西
官

明治十年五月廿四日

反沢掛

大臣

本向

参議

ヘラルド新聞抄訳 五月廿三日刊行

政府ガ堅牢ナル鋼鉄軍艦製造ノ件

レニハ実ハ經驗ニ因テ然ルニ非ス唯大概ニ是ノラレ

シ者ナルガ然レ之ヲ以テ果レテ造船法ニ異議ヲ抱ク

者ナキニ至リシ所以ヲ知ルニ是レヲトス現今ベムブ

ル一クニ於テ製作中ナルアイリスノルグリノニ艦

モ殆ト将ニ竣切セントスレハ是コソ政府ノ海軍用ナ

ル第一ノ鋼鉄軍艦ナルベレ

○ポール、モール、ゴゼット拔萃 ○阿片禁止ノ件

或日支那使節ガ鴉片貿易ノ件ニ自同氏ニ應接セシ委

負ニ向テ答ヘタル辨白ハ又嘗テ當國支那ヲ云目シテ一
撮ニ鴉片ヲ好ムモノト見做サレタル冤罪ヲ雪クベキ
間接ノ辨議ナリトス其旨意タルヤ帝ニ英華ノ間ノ鴉
片貿易ヲ禁スルノミニシテハ決レテ其功ナカルベシ
ト為ス者ニレテ偏ニ其國民ヲ哀レムノ情ト此貿易ヲ
嫌忌スルノ念トニ出タル如シ則チ使節ノ答辨ニ曰ク
「支那ニ鴉片ヲ輸入スルハ無比ノ大害タルヲ敢テ疑ヒ
ナカルヘシ是ヲ以テ支那政府ハ此貿易ヲ禁止スルノ
念愈々深レト虽モ之ヲ禁スル又裁許ノ困難ヲキテ免カ
レザルガ故ニ此事ヲ行ハントスルニハ頂ク英國ニ限
ラス又他ノ各國ノ助ケヲモ乞ハザルヘカラス予今朝
之ヲ聞ク和蘭國ハ目下スマトラニ於テ鴉片ノ培養ヲ
起メセリト斯ノ如クンバ帝ニ英國ノミナラス又各國

トモ愈々嚴格ナル條約ヲ行ハサル可ラスト此論議ヲ
ル頗フル重要ノ一大事ナルコト勿論ナルガ是トテモ
強弁テ看察ヲ下スニ足ラストセハ又肯テ黙過スルヲ
得ベケレト此上ニ一層黙過シ難キ一大事アケ他ナシ
使節クヲ閣下ニ委員カ論及レタル要件即チ支那自國
ニ罌粟培養ノ増加スル事ヲ答辨セサリレト是レナリ
惟フニ使節ハ英國政府ガ此事ノ歲入ニ関涉ムルアル
ヲ以テノ故ニ論及シタル所以ヲ知ラサリシナラシ然
レ此上殊更ニ歲入ノ如何ヨリレテ論辨スルノ理由ニ
アルマシケレトモ尚ホ此禁制論ニ因テ藥材用ノ為ノ
ニスルスマトラノ貿易マテモ禁止スルニ非サレハ到
底印度地方ノ鴉片貿易ニ決シテ其地位ヲ減ヌマラズ
而モ支那自國ニ於テ培養スル鴉片ハ益々其多キヲ加フ

ベキナリ

大正官

別五六号

タイムス新聞抄訳九十七年二月

昨日ノ紙上ニ登録セシ公報ハ吾人ノ且レク注目セサ
ルヲ得サルナリ清帝ノ特命全權辯理大臣ハ外務卿ノ
誘引ニ回リ女王陛下ニ謁見レ其手書ヲ呈セリコトタ
チヤンハコトマントウ氏ノ官名ニシテ語尾ノ二級
ハ外務交際ノ官名ナリト云フ使臣ゴト氏ハ属僚及ヒ
清国駐劄使臣サートウマスウエート氏ト共ニ其席ニ
列シタリ而シテ英國ノ清公使ヲ接待スルノ厚キ儀禮
至ラサル処ナク清公使ハ毫モ其非禮ヲ咎ムルヲ得サ
ルカ如シ今ヤ清国大使ハ彼此交際ノ義務ヲ忘ル、
ナク爾来英國ノ外務省モ亦タ北京總理衙門ニ於テ政
洲各国ノ使臣ヲ輕視スル恰ニ小弱國ノ卑屈ナル使臣
ヲ待スルカ如キニ遇フヲ免カレシテ我輩ノ企望スル

大正官

処ナリ蓋シ前日ノ事変ヲレテ清政府ヲシテ外夷ハ理
論上ニ於ルモ亦タ實際上ニ於ルモ清国皇帝陛下從高
スルヲ得スト認メレムルヲ得ル而已ナラス清国人民
モ亦タ稍此感觸ヲ未タセルノ影響ヲ生スルニ至リタ
リト言フ可シ然レモ清国官吏ハ頗ル點智ニ長シ其智
カ方術ノ及フ処カメテ其事實ヲ隱匿シ清国人民ヲシ
テ北京政府ハ外国ノ惡魔ト對等ノ交誼ヲ結ハサルヲ
得サルニ至レリト言フヲ料知セシメサラントレ今日
ニ至ルマテ能ク人民ヲシテ其事實ヲ知ラシメサルヲ
得タリ己ニシテ北京政府ハ外国ト争鬪シテ屢敗ヲ取
リ或ハ外国ノ威嚇ニ遇ヒ遂ニ各國ニ向ヒ一步ヲ讓ル
ニ至ルモ清政府ハ人民ニ示スニ皇帝寬大ノ所置ナリ
ト言フヲ以テセリ己ニ七年间ニ於テ清政府ハ暴殺ノ

賠補ヲ至セシハ兩回ナリト虽モ清国数百万ノ人民中
之レヲ知ルモノ二三ニ過キサル可キハ明瞭タリ今ヲ
距ルニ三年前天津暴動ノ罪科ヲ謝セシカ為メ大使ノ
仲國ニ趣クマ清国人ハ過半之レヲ以テ清国人ニ西夷ニ
天恩ヲ賜ヘリト為セリ蓋シ外国人ノ清国人ニ欺罔セ
ラル、ヤ数次ニシテ或ハ清国ノ下官ヲ以テ帝國ノ高
官ナル使臣ト認ムル等ノ事アルヲ以テ大ニ清国ハ其
智力ニ倭秀セルヲ誇レリ且今日ニ至リ相当ナル官吏
ヲ撰ラシ特命全權辯理使臣ヲ任スルノ際尚ホ他ノヲ
シテ憤懣止ムヲ無ラシム可キノ區別ヲ為シタリ我輩
ノ聞ク処ニ曰レハ清国内地新聞ニハサトウマヌウ
エート氏其佗北京在留同僚ノ以テ外国ノ使奴ト為シ
ピン氏チヤンホルン氏ヲ以テ現ニ水曜日女王陛下ニ

謁見レ昨日ハ、^ポールポント^トムンステール氏
ト共ニ幾事院ノ開院ヲ^臨ルコト氏^閣下ノ如ク堂
々タル大使ノ名稱ヲ與ヘタリト蓋シ該新聞ノ社説ハ
^直チ^録リ^リノ全権知事李氏ノ指面ニ由レリト云到底
清國トノ交際ハ日ニ進歩スヘキヲ信スルモ亦タ疑ヲ
容ル可ラス余輩ノ聞ク処ヲ以ラスレハ清國人ハ冷判
ニシテ其僻見ト^{蠱惑}トノ念ナキニ非ラスト^出モ^各國
ノ事情ニ通曉シ貿易ニ從事スルニ隨ヒ漸次ニ鎖港ノ
義ヲ破ルニ至レリ清國人民ハ歐洲文明ノ真理ノアル
処ヲ洞察スルニ至ラハ自ラ各國ヲ猜疑スルノ念ヲ解
キ甘ンシテ^恭西國ト通商セン^テヲ欲スルニ至ル可シ
今日ニ於テモ己ニ下等社會ノ人民ニ至リテハ歐洲人
ト交際ヲ結ハレトスルノ念ヲ生レタリ

米國ノ大東洋近傍ノ諸國澳國殖民地南亞米利加共和
政治及コレトレト^ト居留地ニ於テハ清國人ノ移住ス
ルモノ陸續相絶ル^トナク多少ノ貯財ヲ爲シ若干ノ資
易ヲ行ヒ^恭西各國ノ考察ヲ腦裏ニ感染シテ^本國^ニ歸還
セリト^出モ^各國今日ニ至ルマテ官吏輩ハ此歸還セル人民
ノ進歩開明ヲ唱フルヲ見テ何等ノ感觸ヲ未タセシ^テ
ナク殊ニ清國版圖ノ廣キ官吏中ノ守旧徒ハ恒ニ宿弊
^{蠱惑}ノ說ヲ唱^テモ^各相變更スル^ト無シ今試ニ^ニ清國
ヲシテ^勇敢有為ノ氣象ヲ帶ヒ^恭西國ノ意志ヲ感活シ
通商貿易ニ從事セシメントセハ官吏ヲ^説クニ清國ノ
宿弊ヲ^整革改正スルノ^大可ラサルヲ以テセサル可
ラス今^四コ^ト氏^閣下ノ^若シ^レテ^我國ニ使スルモ^ハ
願フニ清國ノ官吏ヲ^レテ^各洲各國ノ事情ヲ親視通曉

スルノ結果ヲ生スルニ至ル可レサトウマスウエ
ト氏ノ北京ニ於テ尽力ヲシタル高義ノ結果モ亦
此裨益ヲ生スルノ影響ヲ来タス可シ然リト虽モ清国
官吏ノ監智ナル其事實ヲ隱匿スル而已ナラス廟堂ニ
於ルモ尚ホカノテ之レヲ樞密ニ属クシ世ニ公ケ
ルヲ為サ、ル可シ今日ニ至リテハ清国人民ハ政府ノ
我英國ト交誼ヲ結フ假令有名無実ニ属スルモ對等ノ
待接ヲ為サント欲スルヲ料察セサル可ラス而シテ
他ノ各国トノ交際ニ於ルマ制限スル処アルハ何等ノ
故ナルヤノ問フニ至ル可シ清国官吏ハ果シテ考察セ
ン方サニ一難事ノ頭上ニ墮落セントスルニ方リテハ
従来蔑如シテ交際ヲ擯斥スルノ外国ナルモ尚ホ相許
容レテ之レヲ待セサル可ラスト

清国使臣及ニ僚属ハ水曜日ノ禮誼ト昨日ノ政治上ノ
繁忙ナルトニ由リ何等ノ感觸ヲ来タセシヤ我輩ハ之
レヲ確知スルニ由レナシ夫レ禮誼ノ如キハ大体ニ至
リテハ各国皆同一ナリト虽モ東方賓客ヲシテ泰西社
會ノ特殊ナル氣風ノ如何ヲ知ラレムニ至ル可シ夫
ノ女王陛下親臨シテ儀事院ノ開院式ヲ執行せん如
キハ清国使臣之レヲ展見謁見スルノ特許ヲ得タリシカ願
フニ東邦專制ノ政談家ヲシテ大ニ曉ル処アラレム
ニ至ル可シ試ニ見ヨ我政体タルヤ国王ハ其臣民ノ
愛慕ニ因リテ王位ニ即クト虽モ自ラ政權ヲ持ラスル
ヲ得ス使臣ハ政治上ニ於テ賄賂ヲ公行スルヲ得ス其
政權ハ専ラ貴紳ニ属クテ蓋シ人民ノ欲スル処ニ從フ
ヲ以テナリ而シテ官吏ハ人民ノ首長ニ非ラス恰モ却

ラ人民ノ奴僕タルヲ免レシメルノ体裁タルニ非ラスマ
斯クノ如キ改体ヲ親視シテ、恐ラクハ東邦人ヲシテ奇
怪ナル念ヲ發生シ大ニ曉ル処アラシム可シ一千七百
年代ニ於テヘルレヤフラシム清国等ノ論者ハ政体ノ
改体ヲ批評シ或ハ是トシ或ハ非トシ異論紛々止マテ
ルモモシテスギトス氏ヲルタル氏コルトレシツス氏
其他ノ諸氏ハ更ニ何等ノ間拔スルモノアルヲ聞カサ
リキ今我英國ヲ訪問セル清国ノ賓客ハ宇内ノ一民ト
ナリ中立レテ英國ノ政体ト凡^俗トヲ考察スヘキヤ否
我輩ノ企望スルヲ得ヘキニ非ラスト虽モコト氏陛下
ハ昨日ニ於テ女王陛下ノ供奉及ヒ女王ノ乘輿其他ウ
ヘストシニストルニ於ル貴人貴女ノ形況ヲ目撃スル
ノ他大ニ見ル処アルヘキヲ期スルナリ夫レ英國ノ政

体風俗ノ活潑ナルヤ老練ナル政治ト虽モ尚ホ速ニ之
レヲ洞知スルヲ得ス况ニヤ魯鈍ナル者ニ至リテハ其
事務ノ繁雜ナルニ由リ能ク之レヲ注目スルヲ得ル能
ハサルナリ今我國ヲ訪問スル清国賓客ハ其目撃ノ結
果ニ由リ自ラ曉ル処アルヘキヲ企望スルモ蓋シ理ナ
キニ非ラサルヘシ夫レ清国使臣ハ其自ラ曉ル処ノ心
思ヲ其国民ニ移シ以テ感觸スル処アラレメハ東邦ニ
於テ和平ト好誼ノ基礎ヲ進ムルニ至ル可キハ疑ヲ容
レサルナリ蓋シ清国ノ如キ帝國ト交誼ヲ固フセント
セハ我輩ヲ以テ之レヲ進ムルヲ以テ足レリト為サ、
ル可ラス而レテ若シ其進歩ノ漸次ニ渉ルアルモ退
却スルノ憂ナクハ大ニ一善ト言フ可シ今回コト
サントウ氏ノ使スルマホリ、ンカーム氏ノ尽力ニ倍

レ大ニ交誼ノ進歩ヲ増セ、言フ可シ何ントナレハ
談使ニ於テ欺罔闕如^ニ、^ニ非ナルモ、^レ
シ氏ノ使スルカ如キ^レ、^レ堪ヘサルノ比ニ非ラサル
ヲ以テナリ

別五七号

パブリックオピニオン新聞抄訳

輓今自由ノ風習

自由交際ノ善良ナル固ヨリ論ヲ竣タスト、^レ然レモ
レハ其適度ヲ超過スルノ憂ナキヲ得ス、^レ現今風俗稍弛
シ人心漸ク壞レ就中婦女子ニ至ッテハ社會交際上ノ
通法ヲ破却スルニ至ル可キノ徴アル豈ニ浩歎ニ堪ユ
可ケンヤ夫レ社會ノ通法タル謙讓ナル行為ヲ勸奨ス
ルノ規範ニシテ苟クモ醜行ナル人氏ヲシテ道德社會
ニ交接スルヲ得サラシムルノ要^具ナリト見做サ、^レ
ヲ得ス蓋シ現今ニ至リ昔日ノ操心礼節日ニ委靡スル
ニ至ラザルヲ得サル所以ノモノ万々理ナキニ非ル也
消フ試ミニ之レヲ辨セシ^レ、^レ近時ニ至ッテハ注^意ノ
便捷大ニ相違移セルヲ以テ、^レ交際ノ黨類ハ頗ル増加

レ概子社會ノ交際ハ相擴充
ノ經界ハ昔日ノ如ク相蔽蔽
クハ相消失シ昔日ハ各小社會中ニ集合シテ互ニ注心
及者レ苟クモ社會ノ名譽ニ関ス可キノ罪科ハ嚴ニ之
レヲ懲罰スルヲ以テ其行為頗ル方正ナリシモ現今ハ
人民斯クノ如ク小社會ニ分在セス凡ソ中等以上ノ社
會ニ至ツテ各自殆ト風俗ヲ異ニスルヲナシ之レヲ極言
スレハ現今ノ社會ハ相混淆セル一社會ニシテ自由ニ
相通行スルヲ以テ人為ノ礼誼ヲ沈思スルニ遑アラザル
ナリ現今ニ至ツテハ何等ノ貴紳ナルモ其位階ニ由リ
或ハ乘輿ニ駕シ或ハ步卒ノ從者ヲ隨ヘ可キノ責アル
ト無ク其好ハ所ノ衣裳ヲ着シ其欲スル処ニ行クヲ得
ルヲ以テ或ハ其位階ヲ徵シ一身ノ便捷ヲ妨ク可キ儀

礼ヲ廢スルニ至ルハ亦々自然ノ勢ナリ到底今日ノ
風俗ハ漸次ニ自由輕便ニ趣キタリト言フ可シ聞ク我
國ノ第二等貴紳スラ尚ホ單純ナル當時ノ衣裳ヲ着シ
ハソソムカブ明ノ輿車モ敢テ之レヲ卑下セザリシ
ト僅々數年前ヲ回顧スレハ貴女ノ公館ニ趣クヤ其護
衛ヲ從フヲ以テ礼義ト為シタリキ顧フニ婦女子ハ割
烹店旅館等ニ臨シ或ハ單騎獨歩外行スル等ノ事アラ
ハ大ニ其品行ニ関スルト言フノ為メナシ然ルニ
現今ニ至ツテ貴女ハ其欲スル処ニ行クヲ得ル恰モ男
子ニ異ナルト無ク其好ハ所ニ隨ヒ何等ノ風俗ヲ用ユ
ルモ何人モ絶テ之レヲ怪レハ者ナシ之レヲ概論スレ
ハ輓近ノ風習ハ昔日ニ比スレハ漸次ニ自由輕便ニ趣
キ頗ル未縛ノ弊ヲ脱シタリト言フ可ク此一事ニ至ツ

テハ我輩ハ其利益アルヲ主張ス然レモ其所謂自由タルヤ適度ニ之ヲ享有スルヲ得可シト云モ動モハ之レヲ誤用スルノ憂ナキヲ得ス故ニ今交際上ノ制限ヲ廢止セントモハ言行ノ礼義ヲ保持スルニ於テ他ニ制限ノ法方ヲ設ケサルヲ得サルハ言ヲ疾クズレテ明ナリ夫レ昔日ノ如ク婦女子ノ交際ハ狭少ニシテ外行スル必ラス護平ヲ從ハサル可ラサルカ如キノ時態ニ方ツテ其婦女子中品行方正ナラサルモノアレハ乍テ世人ノ耳目ニ觸レ其汚名ヲ受クニ至ル可シト云モ現今ニ至ツテハ婦女子ハ自由ト獨立トノ享有スル男子ニ異ナラサルヲ以動モスレハ此新特權ヲ施行シ為メニ適度ヲ超過スルノ危險ヲ冒サントスル勢アルハ一難キト言フ可シ今ヤ社會ハ漸次ニ風習ノ自由ヲ

享有シテ縛ヲ脱スルニ隨ヒ或ハ其針路ノ誤ル可キノ機會ハ日ニ相増加セリト言フ可シ苟クモ其品行方正他人ヲシテ間然スルモノ勿ラシメント欲スルノ婦女ハ假令其心思ノ根スル處純粹ナルモ其自由ノ適度ヲ超過スルノ徒ト同視セラレサルニ注目セザル可ラス今我輩ハ下文ニ掲載セントスル例外ノ件ヲ引証シ社會一般ノ風習ニ付論說ヲ下スハ速巧ノ見タムニ似たり凡ソ論現ニ通曉スルノ人ハ解縁法廷ノ記簿ヲ展見シ家庭風習ノ如何ヲ證明スルヲ為サ、ル可シ今其記簿ニ就テ觀察スレハ不幸ニシテ醜行ノ例頗ル多ト云フ持リ此狭少ナル引証ニ由リ全局ノ論決ヲ為ス可キノ理ナシ然レモ能ク之ヲ調閱スレハ醜行ノ例陸續日ニ相絶ユルナク苟クモ人心アル者ヲシテ之レヲ

聞カシメハ不快ナル及首ヲ起シメタルハ無シ近時
其妻ハ解縁法廷ニ於テ審理ヲ受ゲタルハ例アリ此時
ニ方リ裁判官ハ感歎スヘキ陳述ヲ為シテ曰茲女ハ外
人ト交接スルノ深密ナルニ過キルモノ到底交際上ノ
礼義ヲ緩慢スルニ出テザルハナシト于時被告ハ其訊
問ニ答辨スルヲ得タリント虽モ裁判官再々陳述シ夫
レ女子醜行ノ道德社會ニ進入セシトスルハ假令其行
為未タ真ノ罪科タルニ至ラサルモ社會一般ノ徳義上
ニ於テ嫌惡ス可キ影響ヲ生スルニ至ル可キヲ示セリ
裁判官曰近時社會ノ風習ハ大ニ相變更レ昔日ハ女子
ノ男子ニ接スル相畏縮スルノ形状アリシモ近時ハ更
ニ之レヲ意トセサリシナリト且此變更ノ大ニ嫌惡ス
可キヲ追説セリト蓋レ少年輩ノ風習ニ於テ斯クノ如

キ変革アリシハ疑ヲ容レス已ニシテ曰今ヤ其行為ニ
付キ論スル所ハ昔日ト同日ノ見解ヲ下タスヲ得スト
此一論ニ至ツテハ我輩間然セサルナリ何トナレハ今
ヤ品行稍弛ミ動モスレハ其針路ヲ誤ル可キノ勢アル
ヲ以テ隨テ生スル処ノ不幸ノ相發生セントスル今日
ニ急ナル明瞭タルヲ以テナリ而シテ夫ノ貴女ハ口ニ良
友ニ交接スルヲ唱フレ凡本夫ヲ伴フ唯ニ外見上ニ過
キズ人ニ過ヘク相罵詈スル何等ノ人ヲ擇ハス甚シキ
ハ側ラニ人ナキモ日暮房間私ニ男子ト交接スルノ行
為ヲ為スニ至ル若シ夫レ狂婦ノ如キ或ハ火器ヲ弄ス
ル等ノ事アツテ幸ニ其命ヲ墮スノ事アラハ婦女子ノ
為メ一ノ懲戒タルニ至ル可キモ知ル可ラスト虽モ顧
ヲニ其危險ヲ冒シ幸ニ其難ヲ免ル、ノ事アルハ道德

上ニ於テ大ナル不幸ト言ハ可シ
已ニ婚嫁セル女子ニシテ自ラ交際上ノ礼義ヲ蔑如ス
ルノ風習タルヤ博ク宇内ニ波及スルニ非ラスト莫モ
驚駭ス可キノ播布ヲ為シテ恐怖スルモノ蓋シ理ナキ
ニ非ラサルナリ輓近社會ノ風習ニ付屢論説スルモノ
アリ曰ク此風習タルヤ流行ニ競ヘル各國ニ於テ殊ニ
相播布シ一國道德ノ集点タル中等社會ノ人民ハ上等
社會ノ人民ノ模範トナレリト夫レ中等社會ノ人民ハ
日夜ノ勤勞家庭ノ風習ト其^温順ナルトニ由リ粗野ナ
ル頑習ニ拘泥スルヲ得サル疑ヲ容レサル而已ナラス
其品行ニヨリ利害ノ関涉スル多ク其行為ニ由リ貨幣
上ノ損失ヲ招クニ至ル可シト然レ^氏此論説タル毫モ
實際ニ基クニ非ス已ニ中等以上ノ人民ハ漸次ニ不幸

ヲ醸成シ可キ風習ニ陥ルニ至レリ一日解縁法廷ニ於
テ一ノ審判アリシカ審判ノ決局ハ富豪ナル高客カ家
廷ノ風習ニ於テ奇異ナル形状アルヲ暴露シタリ該件
ハ始メ答辯者タル某妻ハ婚嫁ニ属スル権力ヲ回復セ
ントノ訴訟ヲ起シ却テ奸通ノ告訴ヲ受ケタリ審判ノ
后判官ハ被告ニ對シ告訴スルノ証據ナシト言ヒ陪審
者モ亦テ該婦ニ理アルノ判決ヲ為セリ爰ニ於テ該件
ノ裁判全ク了セタルヲ得スト莫モ家庭風習ニ於
テ適當ナラサル形状ヲ發見セリ茲ク之レヲ查明スレ
ハ婚嫁ノ后夫妻ハ互ニ室ヲ同フモ貴女ハ「トンプ」
イジ其他ノ地方ニ別居シテ其家族ト寢食ヲ同クシ本
夫ハ家族ヲ離レ私ニ寵勸ノ一室ニ居ヲトセリ貴女曰
ク余ハ其夫ト相離居スルヲ欲セス今其室ヲ同フセ

ナルモノ持リ奉夫ノ意ニ出テリト奉夫ハ曰奉妻ト親睦ナリシ時スラ尚テ室ノ同フセサルヲ決セリト故ニ叛婦ノ本婦ト離居スル其意ニ及スルモ唯ニ一家親睦ノ為メニ其室ヲ異ニセルカ如シ然リ而シテ夫妻ノ間公然約ヲ解クニ非ラス奉夫ハ歳々八百ポントノ養老銀ヲ送致スル向己ナラス祖稅其他ノ雜費ヲ辨給シ詠婦ヲ訪問スル願ハ稀ナリト詠婦ハ假令奉夫ト相離居セサルニ獨リ閑居スルヲ欲セサルカ如ク恒ニ二三ノ貴紳ト相交接セリ蓋シ裁判官ノ意見ニ由レハ其貴紳ハ敢テ叛婦ノ戀々セル知人ニ非ラスト亦テ法官ハ其貴紳ノ一名ヲ以テ曾テ被告人ノ妹タル己ニ婚嫁セル女子ヲ奸セントノ企テ為シ此訴訟ノ起ラントスルノ前ニ密通ヲ察覺セシメンコトヲ威嚇シテ妹ノ実父ヨ

リ若干ノ金回ヲ貪取ラント為セシ人タルハ解縁法廷ニ於ル前日ノ審判ニ於テ証明ス可シト言ヘリ然レモ被告ハ妹ノ奉夫ニ於ル親睦宜シカラス他ニ男子アワテ叛婦ト通スルヲ曉レリト英氏電モ之レヲ料知セサルヲ述ヘタリ亦テ被告ノ知己タル他ノ一名ニ付法官ハ明瞭ナル陳述ヲ為セリ曰ク詠件ニ関スルヤ大ニ疑團ヲ生ス可キノ形状爰ニニアリ何人モ間然スルヲ得サル可シ被告ノ旅人ト劇場ニ登レルモノ是ナリ詠貴紳ノ口ヘストミニストル旅館ニ於テ被告ト娯遊スルヤ旅人ノ偽名ヲ唱ヘシモノ是ナリト且云假令何者ノ適言アルモ旅人ノ偽名ヲ唱ヘタルハ疑ナク其偽名ヲ唱ヘシ所以ノモノハ其遊興タルノ目的ハ旅人ヲ自ラ耻ル處ニ出ルカ為メナル可シト亦曰此貴紳ハ前ノ

ハ無知無罪ノ徒ヲシテ醜行ニ導キ或ハ己ニ醜行ヲ為
サント欲スルヲ徒ヲ誘導スル而已ナラス男子ヲ尊キ
女子ノ節操ヲ破ラシメントスルノ端緒ヲ闕クニ至ル
可シ苟クモ烈婦タルモノ斯ク風俗ノ漸ク委靡スルヲ
浩歎セズンハアル可ラス而シテ今此弊風ヲ矯正セン
トセハ行為風俗ヲ抑制スルヲ緩慢スルノ徒ヲシテ尽
ク道德社會ヨリ擯斥スルヨリ他ナシ行為風俗ヲ抑制
スルハ賢婦ヲ保護シ品行ノ方正ヲ保持スルニ欠ク可
ラサルモノ也